



平成19年3月期 第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成18年8月4日

上場会社名 関西電力株式会社

(コード番号：9503 東証・大証・名証第1部)

(URL <http://www.kepco.co.jp>)

問合せ先 代表者役職・氏名 取締役社長 森 詳介
責任者役職・氏名 経理部長 杉本 康

TEL：(06) 6441-8821

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無
 ② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
 ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有 連結（新規）1社 （除外）2社

2. 平成19年3月期第1四半期財務・業績の概況（平成18年4月1日～平成18年6月30日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

(百万円未満切り捨て)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年3月期第1四半期	592,934	2.7	70,410	△23.5	59,043	△20.1	34,923	△29.8
18年3月期第1四半期	577,087	△0.7	91,989	△12.2	73,896	△10.8	49,776	2.1
(参考)18年3月期	2,579,059		327,170		247,552		161,049	

	1株当たり 四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
19年3月期第1四半期	37	69	37	36
18年3月期第1四半期	53	38	—	—
(参考)18年3月期	172	84	—	—

(注)売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同期増減率を示す。

[経営成績の概況]

当社グループの主たる事業である電気事業では、春先の気温が前年より低く推移し、暖房需要が増加したこと、また設備投資に加え、輸出や企業の生産が増加し景気が着実に回復を続けたことなどから、総販売電力量は、344億6千万キロワット時と、前年同期を2.6%上回りました。

収入面では、本年4月より実施した料金改定の影響はあったものの、総販売電力量が増加したことにより、電灯電力料収入が増収となったことなどから、売上高は592,934百万円と、前年同期に比べて15,847百万円の増収(+2.7%)となりました。

一方、支出面では、原油価格の高騰などにより火力燃料費が増加したことや、修繕費が増加したことなどにより、営業費用は522,523百万円と、前年同期に比べて37,426百万円の増加(+7.7%)となりました。

この結果、当四半期の営業利益は70,410百万円と前年同期に比べて21,578百万円の減益(△23.5%)、経常利益は59,043百万円と前年同期に比べて14,852百万円の減益(△20.1%)、四半期純利益は34,923百万円と前年同期に比べて14,853百万円の減益(△29.8%)となりました。

(参考) 販売電力量

(百万kWh、%)

	19年3月期 第1四半期	18年3月期 第1四半期	前年同期比
電 灯	11,013	10,385	106.0
電 力	23,450	23,194	101.1
計	34,462	33,579	102.6

(注)「電力」には、特定規模需要を含む。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
19年3月期第1四半期	6,758,456	1,795,001	26.5	1,937 41
18年3月期第1四半期	6,831,100	1,655,937	24.2	1,775 71
(参考)18年3月期	6,856,489	1,785,985	26.0	1,927 29

[財政状態の概況]

当四半期での設備投資額は、前年同期に比べて4,493百万円減少（△7.9%）の52,264百万円と、減価償却費（93,478百万円）を下回る投資額となったことや、使用済燃料再処理等積立金が減少したことなどにより、当四半期末の総資産は、前年度末に比べて98,033百万円減少（△1.4%）の6,758,456百万円となりました。

当四半期末の有利子負債残高は、法人税や期末配当金の支払いなどの季節的な資金需要に対応するため、コマーシャル・ペーパーなどを活用した結果、前年度末に比べて8,862百万円増加（+0.3%）の3,332,861百万円となりました。

また、当四半期末の純資産は、四半期純利益を34,923百万円確保できたことや、貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準の適用の影響などにより、前年度末に比べて9,015百万円増加（+0.5%）の1,795,001百万円となり、自己資本比率は26.5%と、前年度末に比べて0.5%上昇いたしました。

これらの結果、1株当たり純資産は前年度末に比べて10円12銭増加し1,937円41銭となりました。

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第1四半期	116,768	△ 80,527	△ 19,029	72,934
18年3月期第1四半期	89,837	△ 77,573	7,395	87,571
(参考)18年3月期	528,878	△ 293,645	△ 247,379	55,811

3. 平成19年3月期の連結業績予想（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

平成19年3月期の連結業績予想（中間期・通期）について、平成18年5月に公表いたしました予想数値（当初予想）からの変更はありません。

平成19年3月期の連結業績予想

	売上高	経常利益	当期純利益
	億円	億円	億円
中間期	12,550	1,700	1,060
通期	25,200	2,050	1,230

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 132円76銭

以 上